

## 第6回 9月11日(金)

今回は、中友に携わってくださっているスタッフから、中友への思いや成り立ちについてお話していただきました。

差別に負けないために行われていた補充学級が2002年に終わり、2017年から中友が始まりました。きっかけは、昼夜逆転で自分の部屋から出ず、「生きている意味がわからない」というある一人の生徒でした。学校では教師に…家庭では親に…いろいろ言われることもあるけれど、学校でも家庭でもない場所で「わかっているけど、できへんねん」ということや「今、自分がしんどいなあ」と思っていることを出せる場所であってほしいというお話をしていただきました。また、「どんどん私たちを頼ってや！」という心強いお言葉もいただきました。

しんどいことのない人なんていない。中友に来ることで、人の輪、人のつながりができて、自分の気持ちをコントロールできる場所であってほしい。最後は“黒幕”というゲームをして、みんなで盛り上がりました。



## 第7回 9月29日(火)

今回は、「先輩のお話」ということで、大正中学校の卒業生3人から、今現在の自分に至るまでのお話をしていただきました。

「中学時代に部落研に熱心に取り組んだこと」「人前が苦手だったが部落研の活動を通して自分の意見が言えるようになったこと」「どのように考えて高校選択をしたのか」「人生において切羽詰まるタイミングがあって、その時にどれだけ必死になれるか」「人間、必死になればやれる」「仕事は我慢の塊。学校があまり好きではなく、休みがちで引きこもっていた時期があったこと」などさまざまな経験を語ってくれました。

最後にスタッフが、3人の先輩の話の中から、印象に残った言葉をあげられ、

『人に好かれることが大事』『いろんな人に支えられて変わった』

『友だちと出会って大学を卒業できた』

3人が言った言葉にすべて人が入っている。人とつながることって大事ですよ！

とおっしゃられました。参加してくれた生徒からは、「前向きな気持ちになれた」「頑張ろうと思えば頑張れる」「これからの進路選択に役立ち、考えが広がった」「これ頑張ったと言えるような人になりたい」「勉強大事！メッチャ良かった」などの感想がでました。3人の先輩のみなさま、ありがとうございました。

